



7

The Fourth Year

料理というのは、仏教の戒に基づき殺生や煩惱への刺激を避けるため、肉や魚を使わずに調理された料理です。例えば、野菜や玄米や豆腐などを使った料理です。一般的に使われない食材は、肉や魚の

今回は、メンバーが夏休みに体験したこと、考えたことを記事にしてみました。みなさんは、この夏、どんな学びや、経験をしましたか？



○Mynaty
・中学
1年生

僕は夏休みに精進料理を食べました。精進



○るーな
・高校2年生

私はこの夏休み、隣町で3年に

他にネギや生姜など香味野菜です。精進料理は、脂っこくなく胃に優しくとても美味しかったです。僕は卵アレルギーなので料理に卵が使われないので、助かりました。学んだことは、「人間の利益のために無闇に生物を殺めると命のバランスが崩れる」「自分だけ贅沢をし過ぎたり、逆に欲望の一切合切を捨てて、一つの極端な考えに傾倒するような生き方は人間としてのバランスを壊してしまう」です。これは持続可能な社会を作る考え方につながると思います。

一度行われる「大地の芸術祭」に何度か訪れ多くの作品を楽しみました。幼い頃から家族と訪れ私にアートの楽しさを教えてくれた祭典ですが、最近ではアートに加えて地域活性という点でも大地の芸術祭を見ていくようになりました。芸術祭の作品は越後妻有地域全域に散らばっていて、中には狭いジグザグ道を越えた山奥に驚きの作品が待っていることもあります。今考えてみると、他では限界集落として問題になるような地域が越後妻有ではアートフィールドとされ、その新たな価値が人を呼んでいることに驚きと面白さを感じています。またある作品の近くでは地域の方々がお茶やお菓子を振る舞っていて、おしゃべりも楽しめ





ます。地域に新しい価値を生み出し、それを地域住民と繋げるというプロセスを私も今後の地域活動で意識してみようと思います。



〇やまこ
高校1年生

私は、新聞をきっかけに、ウクライナの移民の方から、故郷のこと、そして現在の戦争について実際に話を伺いました。故郷について色々な話を聞き、自分との距離が縮まったように感じました。しかし、その故郷が、現在は、戦争によってポロポロに壊れた姿をみて、この戦争の残酷さを改めて感じました。また、「終戦後、人々は国外に流れ、修復にも時間が

かかる中で、帰りたいくないと考える人もいる」、「私の故郷は今、ロシアに占領されているから、勝って取り戻したい」というお話から、「終戦だけを望んでいるのではない」という意思も感じました。

しかし、最後に、「人の命は世界で一番大切です」とおっしゃり、私は、そう考えていても、勝利へこだわる気持ちが、わかりませんでした。その理解を深めるために、ウクライナと日本の「歴史や文化、人々の戦争への考えの違い」について学ぶことが重要だと考えました。そして、「てらスクール」というメディアを持つ一員として、知識と思慮を持って、多くの人の声を発信していけるようになりたいです。



〇あおい
高校1年生

私はこの夏、金沢へ祖跡巡拝の旅に行きました。永平寺をはじめ瑞龍寺や永光寺、宝慶寺など瑩山禅師の祖跡を巡るなかで私は「坐禅」に改めて感銘を受けました。なにか特別な成果を求めるのではなく、ただひたすらに「坐る」として心を沈め、雑念から解放されることで、目まぐるしく移り変わっていく日々の中で自分が自分であるために、心を調えること。これはきつと現代の私たちにこそ必要なことなのではないでしょうか。修行僧の方々の生活はたたみ一畳だと聞きました。聞いた瞬間は





正直不可能と思いましたが。でも確かに食事は半畳、就寝には一畳あれば十分です。「只管打坐」の考えに沿って生きていくことがどれだけを律し、不必要な贅沢をしない生き方なのかを知りました。今まで文章や画面越しでどこか遠い存在であった仏教が、実際に自分の目で見て肌で感じることで更に深いものになったと思います。



○ののは
・高校1年生

夏といえば、花火！ 私は、今年の夏、手持ち花火を楽しみました。お店に行く、エコパッケージの花火というものを見つけました。従来はプラスチックの袋の中

に並べて貼られている花火ですが、その花火は、プラスチック包装やセロハンテープが100%削減されているため、花火の本数が20%も増量されているのに、これまでも同じ値段で売られていました。また、花火を一本一本剥がして取る手間も省け、すぐに楽しむことができました。地球に優しい商品が従来より少し高いというイメージがありました。学生の私にも手取りやすい商品でした。エコ商品というと、見た目が質素になってしまいう物も多くありますが、手持ち花火のような消耗品や、目に触れない自宅でするものなどから、エコ商品を買ってみると気軽にステップを踏み出しやすかったです。



○たろう
・高校1年生

私は夏休みに人口200名程度の漁村町である三重県二木島町を訪れました。地球温暖化による海水温上昇等の影響で、植食性魚類やウニ類が活発化し、海藻が激減しているとのこと。実際に潜ってみると、岩と砂とガンガゼ（ウニ）しかありませんでした。一方で、海藻があるところでは、様々な種類の魚が泳ぎ、生物多様性を感じる景色でした。現在、地元のダイバーや漁師の方々が海に海藻を植えたり、ガンガゼを駆除したりと、藻場を取り戻そうとしています。SDGs 14番と向き合う夏でした。

協力：一般社団法人シク・ジ・アース / 新渡戸文化高等学校教諭 山藤旅蘭

